



開講年度 Academic year	2025年度		
講義コード Course title (Japanese)	021017102		
講義名 Course title (Japanese)	比較文化論B		
英文講義名 Course title (English)	Comparative Culture B		
(副題) Course subtitle			
開講責任部署 Faculty			
講義開講時期 Semester(s)	後期	講義区分 Type	講義
単位数 Credit hour(s)	2	時間 Total hours	0.00
代表曜日 Day	水曜日	時限 Period	1 時限
校地 Campus	大行寺キャンパス		

所属名称	ナンバリングコード
	C2-CCT102LJ

担当教員 Lecturer(s)			
職種（専任教員・非常勤教員） Position (Full-time/Part-time)	担当教員名 Lecturer(s)	実務経験の有無 Work experience	所属学部 Department
専任教員	◎ 齋藤 正憲		発達科学科心理学専攻

授業の内容（主題） Course description	比較文化論Aに引き続き、アジアのさまざまな文化を俯瞰し、考察したい。 ただしAの内容を発展させるべく、さまざまな理論を中心に授業を実施する。
到達目標 Course objectives	1. 比較文化論に関連するさまざまな理論について、理解を深める。 2. 具体的事例を踏まえつつ、「アジア観」を自らの裡に構想し、明確に提示することができる。 3. 自己（日本）と他者（異文化）の違いについて深く考究し、with/afterコロナの世界観を模索するための工夫や視点、発想を身につける。
ディプロマポリシーとの関連 Accordance with diploma policy	

◎：非常に強く関連する
○：強く関連する
△：関連する
空欄：該当しない

①二十一世紀の社会の発展と地域の産業、経済、文化等の活性化に貢献できる能力	◎
②激変する国際社会の中にあって、十分な異文化理解のもとに、長期的で広い視野に立って将来を展望し、行動できる能力	◎
③本格的な高度情報社会において、最新の情報を的確に入手し、それを有効に活用したうえで効果的に情報を発信できる能力	◎

④自らの判断、努力と責任に基づいて、社会に積極的に貢献できる豊かな教養と柔軟な思考力



授業計画表 Course plan

回 Class sessions	内容 Topics	予習・復習 Expected work outside of class
第1回	文化と文明	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第2回	県民性	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第3回	日本辺境論	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第4回	沖縄におけるフィールドワーク	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第5回	和辻哲郎と佐藤洋一郎	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第6回	文明の生態史観	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第7回	乾燥の戦略／湿潤の思考(1)	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第8回	乾燥の戦略／湿潤の思考(2)	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第9回	文明の衝突	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第10回	「アジア的」ということ	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第11回	東南アジアにおける飛躍と継続	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第12回	中心と周縁	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第13回	大伝統と小伝統	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第14回	熱い社会と冷たい社会	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第15回	アジアの構造	講義内容全体を振り返り、独自のアジア観を思い描いてほしい。そのために、4時間以上の学修を求めたい。

授業計画コメント Course outline

講義担当者は、エジプトを皮切りに、台湾、バングラデシュ、インドネシア、ネパール、インド、スリランカにおいて、フィールドワークを重ねてきた。さまざまなアジアで見聞きしたことを、受講生のみなさんと共有したいと強く願っている。

授業の進め方 Session plan

講義形式が中心となるが、受講生のみなさんの積極的な授業参加を歓迎したい。
また、最終的にレポートを書いてもらうべく、担当者が興味を持ったことをみなさんにお伝えするので、ぜひ、主体的に考察を進めてほしい。結果として何らかの「アジア観」がみなさんの裡に芽生えたなら、それは、激しく変化する今後の社会を生きる重要な指針となると信じて疑わない。

アクティブラーニング Active learning

希望者には、レポート内容の相談に応じる。
また、適宜、コメント・シートへの記入を求めたい。

授業時間外の学修（予習・復習等） Preparation and review outside classroom hours

レポート作成を意識して、授業に臨み、また、自ら考察を進めるようにしてほしい。そのための学修時間の確保を求めたい。

教科書等 Textbooks and materials

	タイトル Title	著者名 Author (s)	出版社 Publisher	出版年 Year of Publication	価格 Price	ISBN
1						
2						

3						
4						
5						
(必ず購入すべきもの) Materials required for sessions		特になし。				
参考図書 Reference book(s)		内田 樹 2009 『日本辺境論』, 新潮新書. 中根千枝 2002 『社会人類学: アジア諸社会の考察』, 講談社学術文庫. 和辻哲郎 1979 『風土: 人間的考察』, 岩波文庫. 参考資料は適宜、配布する。また、そのほかの参考図書については、随時、授業中に指示するので、積極的に読んでほしい。				
成績評価方法および評価基準 Evaluation criteria						
	定期試験 Tests	授業内小試験 In-class quizzes	レポート・課題 Reports/Assignments	受講態度 Class Attitude		
評価比率% Evaluation ratio	0%	0%	80%	20%		
成績評価の方法に関する注意点 Assessment criteria		興味を持ったアジア文化を一つ、ないしは複数取り上げて、レポートを書いてもらう。内容は自由とする。是非、積極的・主体的に取り組みを期待したい。				
科目のレベル、前提科目など Level / Prerequisites		アジア文化に関する入門的な講座にしたい。よって、どなたでも、受講可能である。 本講義で得られる基本情報は、以後の、さまざまな研究的授業の助けになると信じて疑わない。				



✕ ウィンドウを閉じる